

環自国発第1803191号
平成30年3月19日

各地方環境事務所長 殿
釧路、長野、那覇自然環境事務所長 殿

自然環境局国立公園課長
(公 印 省 略)

国立公園における通景伐採の取扱いについて

国立公園における展望施設、園地等展望を目的に含む施設（以下「展望施設等」という。）の周辺で展望の妨げとなっている木竹を伐採する行為（以下「通景伐採」という。）の取扱いについて整理したので、今後下記に留意して対応されたい。また、本通知は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第245条の4第1項の規定に基づく技術的助言として各都道府県担当部局長に通知している旨申し添える。

記

1. 国立公園事業である展望施設等（当該施設の敷地のうち、国立公園事業として執行される区域に限る。）内において必要最小限の範囲で通景伐採する行為（当該事業の執行者が行うものに限る。）については、自然公園法（昭和32年法律第161号。以下「法」という。）第20条第9項第1号又は第21条第8項第1号の「公園事業の執行として行う行為」に該当するため、法第20条第3項又は第21条第3項に基づく許可を要しない。また、法第10条第4項各号に掲げる事項に該当しないため、法第10条第6項に基づく公園事業の変更に係る協議又は認可の手続きも要しない。

2. 1に該当しない通景伐採については、法第20条第3項第2号又は第21条第3項第1号に基づき許可を要する行為となる。

この場合にも、当該通景伐採は、自然公園法施行規則（昭和32年厚生省令第41号）第11条第15項第4号に定める許可基準（風致の維持のために行われるもの）に該当する。

なお、個別の行為が、1又は2に掲げる通景伐採に該当するか否かは、行為地の自然環境の状況、眺望対象、眺望方向等を考慮した上で、適切に判断されたい。